

大泉

自然の不思議とノーベル化学賞

校長 佐々木 秀之

秋の長雨が続き、虫の声の便りも聞かれるようになってきました。あの記録的な暑さの夏はずいぶん前のように感じます。

さて、この夏、自宅近くの商店街のコンクリートの道の上で、10cmほどの大きなバッタを見付けました。こんなところによくいるものだと不思議に思うと同時に、以前伺ったノーベル化学賞を受賞された白川英樹先生の話を思い出しました。

白川先生は、自然の中で遊び回るのが大好きで、チョウを採ったり、川で泳いだりして野山を駆けずり回って遊び、自然の中で、「どうして雲が浮いているのだろうか?」「この植物はなぜここに生かれないだろうか?」その時はすぐにわからなくても、後から自然の中にかくされた法則を自分なりに見付けハッとす

<発行>
練馬区立大泉小学校

<所在地>
練馬区東大泉 4-25-1

TEL 03-3924-0144
FAX 03-5387-2092



る瞬間がとても楽しかったそうです。

中学生になると、「将来、新しい性能をもったプラスチックを作り出したい」という夢をもち、物の性質に関する研究を続けてこられました。あるとき、思わぬ失敗から偶然できた黒く光るプラスチックの膜を見て、プラスチックに電気を通すことができないかと考え、研究を重ねましたが、成功には至りませんでした。大学に訪れた外国の科学者がその研究に大変興味をもち、三人で共同研究をすることなり、一年後、ついにプラスチックに電気を通すことに成功しました。目的をもって研究を重ねた上で偶然できたプラスチックは、その後の地道な努力と人々の協力により、ノーベル賞を受賞する世紀の大発見へと結びつき、現在、タッチパネルとして応用され、世界中で役立てられています。

白川先生は、「自然に親しみ、本物を見て自然の不思議と遊ぶこと。遊びながら考えたあなたの今日の発見が、何年後かのノーベル賞につながっていくかもしれない。学校で一番じゃなくたって世界中の人をあっと驚かせ、みんなが認めてくれるような大きな仕事はできるのです。」と話されました。

白川先生のお話は自然だけに限るものではないと思います。本物又は一流を直に目にしたり触れたり聴いたりすることは子どもたちの感性を高めます。子どもたちの好奇心は旺盛です。自然をはじめ、本物の絵画、音楽、本、料理、スポーツ、科学技術、建築などに触れさせることは大切なことだと思います。芸術の秋、読書の秋、勉学の秋、食欲の秋、スポーツの秋など、秋は物事に取り組んだり、習得したりするのによい季節です。何十年後か先、大泉小学校の卒業生がノーベル化学賞を受賞したというニュースを聞くことができるよう、私たち大人が、子供たちに数多くの本物に触れさせたいものです。

10月の行事予定

- 1日(月) 都民の日 運動会振替休業日
- 2日(火) 安全指導・点検
運動会予備日
- 3日(水) 特別時程
- 4日(木) 宿泊学習事前検診(五)
軽井沢宿泊学習始(五)
委員会活動
- 6日(土) 軽井沢宿泊学習終(五)
- 8日(月) 体育の日
- 10日(水) 特別時程(5時間授業)
- 11日(木) クラブ活動
- 13日(土) 土曜授業日(4時間授業)
特別時程 ロング集会
- 15日(月) 生活科見学(1)
振替休業日(五)
- 17日(水) 4時間授業
研究授業(5年1組)
- 18日(木) クラブ活動
- 19日(金) 避難訓練
起震車体験(5・6)
- 22日(月) スーパーマーケット見学(3)
特別時程
- 24日(水) 特別時程
- 25日(木) 特別時程(4時間授業)
研究授業(5年2組)
- 29日(月) 夢・未来プロジェクト
特別時程
- 31日(水) 学習発表会(ことば)



四年生の様子

四年生は今年度九十一人でスタートしましたが、出会いや別れがあり、現在は九十二名となっています。その四年生の学習のキーワードは、「体験」です。

入門期の学習においては、何と云っても体験的な学習が不可欠です。五月にはふれあい環境学習がありました。ゴミの分別体験学習をしたり、小型プレス車によるゴミの収集や放出の様子を見学したりしました。子供たちが驚いたのは、埋立地があと五十年しかもたないという点です。六月の水道キャラバンでは、水源林から浄水場を通って各家庭に水が届くまでの様子を映像から学び、浄水実験（沈殿・ろ過）を実際に体験しました。ここから子供たちは、普段当たり前のように使う水が、これほどの手間や時間をかけていることを知り、水の大切さを理解したのです。この他に消防署見学もしました。

今学期も、街の中の危険なところを実際に現地を調べて作る地域安全マップ作り、障害のある方をお招きしてお話を聞いたり点字を打ったりする活動、埋立地の見学などが予定されています。

これからも大泉小の四年生は、豊かな体験を通してそこから考え発展させていく学習を大切にしていきたいと思います。

(石井正敏)

五年生の様子

五年生になり、新しいものとの出会いに期待と戸惑いと緊張が混ざり合いますがスタートした四月。家庭科の学習、委員会活動、移動教室。半年間で様々な経験をしてきました。

六月の軽井沢移動教室では、大泉小学校の自覚をもち、礼節をわきまえて生活をする姿が見られました。二泊三日と短い日数の宿泊でしたが、精神面で大きく成長することができました。夏季水泳指導に積極的に通った子供たちもいます。「クロールで二十五メートルを泳ぎ切りたい。」「平泳ぎのあたり足を直したい。」「各自めあてをもって取り組んでいました。目標を見付けて取り組む子供たちの成長には、こちらが驚かされました。」

先日の運動会で披露した、大泉ソランの腰を低くする「構え」の姿勢。実際に踊ると分かりますが、3分間のソラン節で腰を低くして踊ることは大人でも汗だくになるほど体力を消耗します。その厳しい練習に一生懸命に取り組むことで日に日にたくましくなる姿に、子供たちの熱心さを感じました。

また、今年から運動会係活動も新たに経験しました。一人ひとつ役割をもち、時間をかけて練習を重ねたり、人知れずこつこつと準備を進めたりし、全校の運動会のために活躍しました。今月は、ロング集会、来月は展覧会と続きます。2学期は大きな行事が重なり、忙しさもありますが、その分やり甲斐のある学期でもあります。子供たちの成長につながる活動になるよう、精一杯の指導をしてまいります。

(立田 康徳)

いずみルームから

今年度より小学校の特別支援教室事業が区内全域で行われるようになりました。いずみルームの担任は大泉小学校および近隣の二校を巡回しながら児童の指導にあたっています。いずみルームで学ぶ子供たちは、友達との関わりがとりにくかったり、自分の気持ちをうまく表現できなかったりすることなどで集団生活の中で何らかの困り感を抱えています。また、運動や学習の一部につきまつきを抱えている子供もいます。

毎週の指導では、「うまくいかないこと」からくる子供の自信のなさや困り感に寄り添いながら、一人一人の課題に沿って個別指導計画を立て、個別学習と小集団学習を組み合わせて授業を行っています。集中力や注意力を高める、体幹を鍛える、身体の使い方を練習する、言葉を介して人と関わる、マナーやルールを学ぶなど内容は多岐にわたります。

子供たちは、小さい成功の積み重ねから自己肯定感を高めるだけでなく、困っている時に「分かりません。」「教えてください。」「など自分から人と関わりながら活動することを経験します。これらの力を付けながら、少しずつ落ち着いて人の話を聞いたりの活動に取り組んだりして、集団での活動に参加できるようになっています。

これからも在籍学級の担任や保護者の方との連携を大切にしながら、一人一人の子供がもつ本来の力を発揮できるように取り組んでいきたいと思えます。

(飯島晶子)

《10月の生活目標》 「落ち着いて学校生活を 送りましょう」

ついこの間まで夏を思わせる気候が続いていましたが、朝晩はだいぶ過ごしやすくなってきました。これからますます何をするのも気持ち良くなり、集中して取り組みやすい気候になっていくことでしょう。子供たちが日々の生活に気持ちを向け、より落ち着いて学習できる環境を整えていきたいと思えます。

言うまでもありませんが、学校は集団生活を行うところであり、時間という枠組みの中で日々生活する場でもあります。子供たちがやるべき課題に取り組もうとするときは、早い時期から見通しをもたせ、発達段階に応じた声かけをすることが、落ち着いて行動することにつながると思います。大人も急いでいるときほど、うっかりミスをしてしまいがちです。そして、そんなときは、自分を落ち着かせようと一息ついて気持ちを立て直す経験は誰にでもあるかと思えます。子供たちが気持ちに余裕をもち、落ち着いて生活できるように指導していきたいと思えます。また、「時間を守る」「人の話を聞く」など、普段の生活の中で当たり前に行っていること、基本を大切にすることが、結果的に「落ち着いて行動すること」に結び付き、怪我を未然に防ぐことにもつながると考えます。そうした一日一日の積み重ねで、今月も安全で充実した学校生活を送ることができるよう努めていきます。

(大澤明子)